

団体・組織の概要

※太枠内，必須事項。その他は，該当する項目を記載してください。

団体/会社名	吉和の川見守り隊		
代表者	西村 文甫	担当者	田中 力
所在地 (代表者)	〒738-0301 広島県廿日市市吉和 14-2 TEL:0829-77-2401 FAX:0829-77-2401 E-mail: turibori-tei@fch.ne.jp		
所在地 (担当者)	〒731-0103 広島県広島市安佐南区緑井 3-39-19 TEL:090-2538-4670 FAX: - - E-mail:workingman2106@hotmail.com		
設立の経緯 /沿革	<p>西中国山地に発し，広島湾に注ぐ太田川。源流域の廿日市市吉和地域では「吉和川」と呼ばれる。流れは澄んでいるが昔と比べて流量が減り，砂で埋まった川底も目立つ。石の裏側などをすみかとする生物には年々厳しい環境となっている。</p> <p>水は地球上の全ての生物にとって欠かすことのできないもの。吉和川のきれいな水を大切にし，もっと生物が自然に命を育むことができる川にしたい。吉和の豊かな自然を子どもたちに残したい。この思いのもと地域住民8人が2009年4月に「吉和の川見守り隊」を結成。</p>		
団体の目的 /事業概要	<p>「吉和の川見守り隊」は今年で3年目となり，現在20代から70代までの隊員がメンバーとして登録している。月1回集まり，川2ヶ所での生物調査と水質測定など，川を通して吉和の自然を見守る活動を実施。定期的に水生生物の専門家を招いた研修会，水や環境に関する講座を開催するなど，資質向上のための相互の研鑽の場を提供するとともに，地域との連携を大切にしながら太田川源流域の情報を地域内外へ発信することを目的とする。</p> <p>また今後は，様々な角度から川の環境について研究・検証していく。将来的には，環境改善のために必要と思われる社会的な地域課題の調査・分析や解決策を研究するとともに，地域住民に現状をわかりやすく伝えていくことで，問題解決のための行動に対する積極的な支援と参加を促すことを目標とする。</p>		
活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)	<p>毎月：定例会（第2月曜日）</p> <p>2010年6・9・11月 生物調査と水質検査の実施（川2ヶ所） ※定点観測 継続的に河川調査データの蓄積をすることで，長期的な変化を監視。 調査結果は専門家に提供し，調査方法等について助言・指導を受ける。</p> <p>2010年3月：吉和下水処理場視察 8月：地元の子どもたちを対象に生物観察会を実施。 11月：地域文化祭で活動内容，調査結果についてのポスター展示。</p> <p>その他，水生生物や環境に関する学習会の実施，環境への市民の関心を高めるため，公的機関（吉和市民センター，広島市民交流プラザ，廿日市市民支援センター等）と協働して活動内容，調査結果についてのポスターを展示するなど，積極的に情報発信をしている。</p>		
ホームページ			
設立年月	2009年 4月	*認証年月日（法人団体のみ）	年 月 日
資本金/基本財産 (企業・財団)	円	活動事業費/ 売上高(H20)	円
組 織	<p>スタッフ/職員数 8名 (内 専従 名)</p> <p>個人会員 8名 ; 法人会員 名 ; その他会員(賛助会員等) 名</p>		

政策のテーマ

フィフティ・フィフティ推進事業（光熱水費等削減分還元事業）

政策の分野

- ・①循環型社会の構築 ②地球温暖化の防止
- ・⑩環境パートナーシップ

政策の手段

- ・④予算・資金措置・⑧環境教育・ESDの推進

団体名：吉和の川見守り隊

担当者名：田中 力

キーワード

フィフティ・フィフティ

政策の目的

様々な環境問題を解決し、健全で恵み豊かな環境を次代に継承するためには、環境に関して、国民一人ひとりが自らの行動を見直し、ライフスタイルを変革する必要がある。特に、次代を担う子どもたちには、自分たちの行動と環境の関わりについて気づいてもらい、子どもたちの活動を家庭での取り組みにつなげることが重要である。

このため、ゴミの減量化、循環型社会に向けた取り組み等、具体的な活動を伝える情報源（参考：エコチャレンジ日記）を小学校に配付するとともに、省エネ活動の更なる推進を目的として「フィフティ・フィフティ」プログラムの導入を目指す。

背景および現状の問題点

地球温暖化は、単に気温が上昇するだけではない。雨の降り方や降雨量の変化、気象の不安定化と異常気象の頻発など、様々な変化が起こる。広島県が公表した「データで見る温暖化」（平成21年10月公表）によると、短時間強雨の増加、海面水位・海水温の上昇、植物の開花・セミ等の初鳴きの時期の早まり、真夏日の増加による熱中症患者の増加等、国民の暮らしに既に影響を及ぼし始めている事例が報告されている。

地球温暖化防止のため、一人一人が身近に起こっている問題という意識をもち、実際にエコ活動を実施することが望まれる。

政策の概要

ドイツで始まった「フィフティ・フィフティ」と呼ばれるプログラムは、学校において、生徒や教職員が協力して省エネ活動を行い、節減できた光熱水費の半分を学校に還元する仕組みである。省エネ教育を行いながら、自治体の経費を削減し地球温暖化防止にも貢献するため、関係者全員が利益を受けることが出来るのがこのプログラムの大きな特徴となる。

当プログラムを全国に展開するため、国から地方自治体に対する補助事業の新設を提案する。

当プログラム導入においては地方自治体の原資を必要としないものの、幾つかの課題があり、普及しない状況にある。以下に課題を記載する。

実施における自治体内の関係部署及び役割は次のとおり。

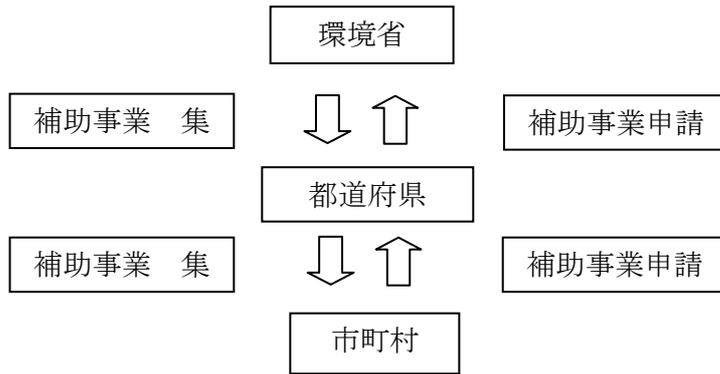
教育委員会:還元費用の管理等 環境部署:環境学習の推進等 予算部署:費用の還元・承認

導入における課題として、関係者が多岐にわたり調整が困難なこと、また予算難により自治体の予算部署が削減費用の還元へ承諾しない点が挙げられる。

上記の課題を解決するため、フィフティ・フィフティプログラムを実施することによる自治体へのインセンティブ付与（補助金交付）を行なう。（補助金申請に係る必須条件として、「フィフティ・フィフティプログラムを導入すること」とする。）また、併せて関係者の導入手続きに関する負担を軽減するため、現在実施している自治体（札幌市等）を参考にした「導入にあたっての具体的な手続き」を記載したマニュアルの作成・配布をすることとする。

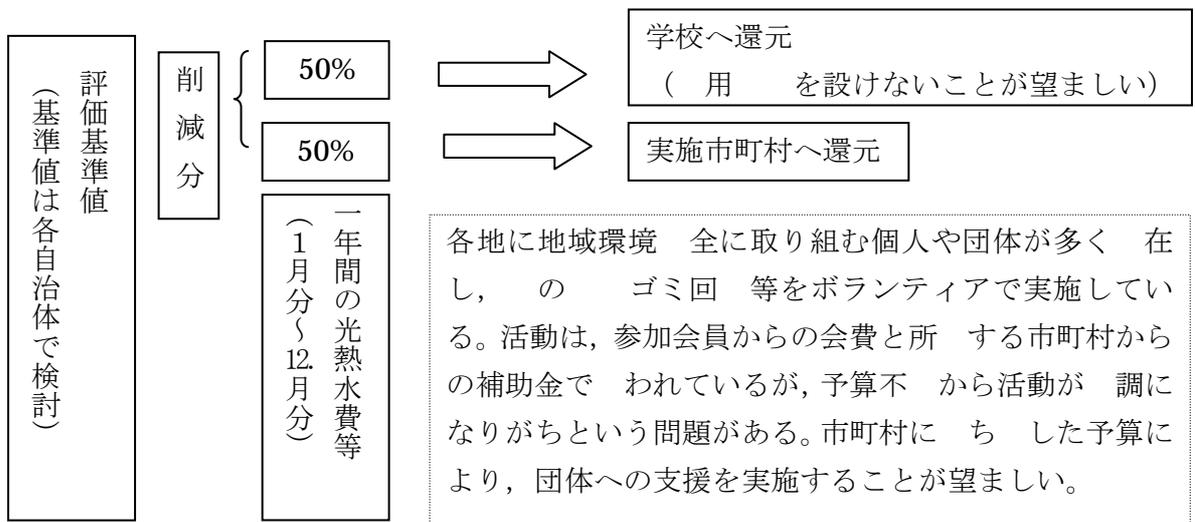
政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

■補助事業フローチャート

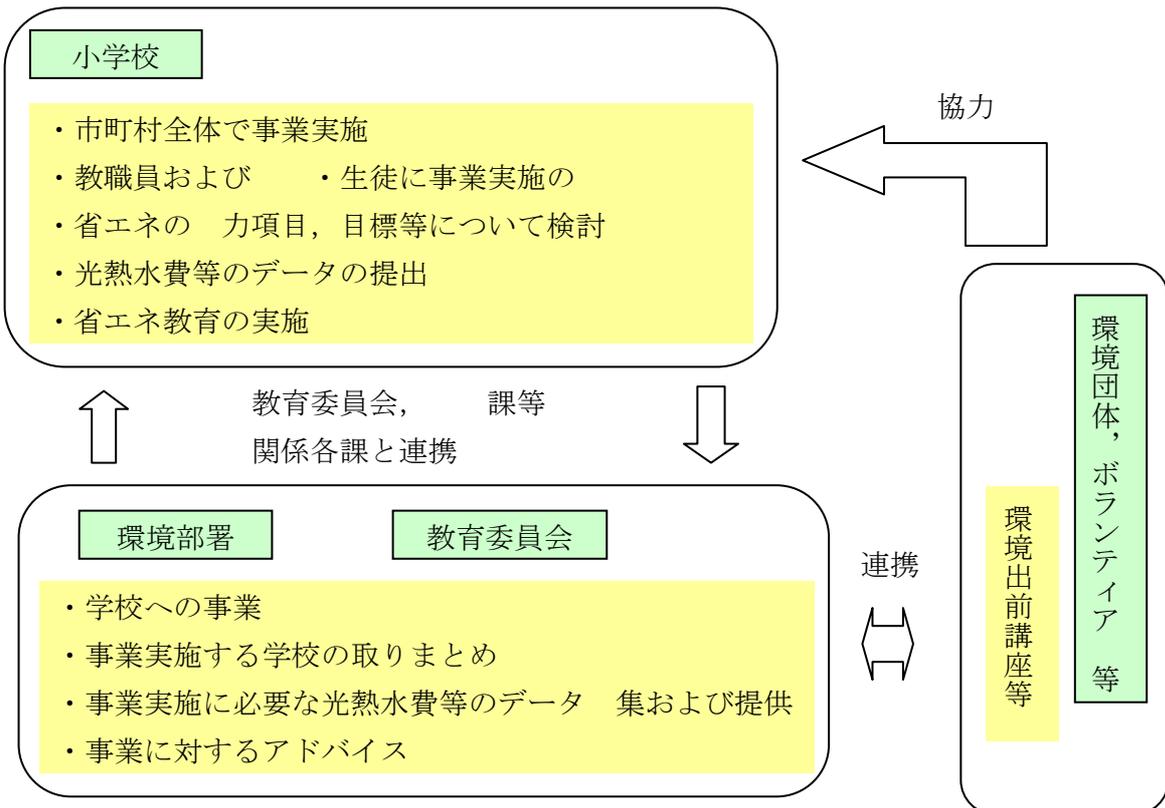


※継続的に実施するため、補助要 に「実施期間は 5年以上とすること」を り む。

■フィフティ・フィフティプログラム



政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）



政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

1 光熱水費、出化量の削減

子どもたちの省エネ行動により、各学校のエネルギー用量（気、水道、都市ガス、LPG等）が削減されることから、エネルギーに使う光熱水費、出化量を削減することがとなる。

各家庭・地域への普及 発促進

家庭は、環境に配慮した行動を起こす身近な場である。家庭を通して子どもは環境に対する考え方を身につけていくが、日常生活の中で環境問題が課題になりにくいという課題がある。

導入により、学校でのエコ活動や環境問題に関する学びなどをきっかけに、日々のライフスタイル（身近で出来るエコ活動）について、家でしやすい環境を作ることを目指す。

学校を中心とした地域活性化

当プログラム導入により学校を挙げたエコ活動を展開しやすい環境を作ることで、取組みをTA者、地区の社会協会、A協、行関係等につなげられるがある。

学校を中心にした地域活として、子どもの元気から広がるづくりとなることを目指す。

その他・特記事項

1 補助金について

補助金の交付対象としては次のように定めている。

条件：申請時に当該プログラムを導入していない学校を一つ自治体（一部実施中も）
用：省エネナ、環境全活動に係る等、フィフティ・フィフティプログラムに関連するものであれば、補助金の用についてしない。

なお、補助金を受けた自治体は、プログラム導入による出化削減量について国に報告し、国は削減された出化を出として益をる仕組みを作る事が望ましい。

環境教育の現状

小学校の子どもたちは、学校の「的な学習」の時間で環境について学。新学習指導要により、「的な学習」の時間は平成20年度の110時間から平成23年度の70時間へと大に減。

学校では学べきことが多いため、業の中で環境について取り上げる機会が減ってきている。フィフティ・フィフティプログラムは、業ではなく学校生活そのものを環境学習にすることができるため、生方から導入を強くめられている。

小学校の意見について

フィフティ・フィフティプログラムについて広島県内の小学校に意見をめたところ、全小学校から導入をめる意見をいた。対象は広島市、山市、広島市、廿日市市、市、大市、府中町、安太田町からの13校を対象とした。以下にいた意見の一部を記載する。

- ・フィフティ・フィフティプログラムはとてもいいと思う。
- ・自分にメリットのある省エネは、大人にも子どもにもやりがいのあるものになる。
- ・当プログラム導入によって、省エネの取り組みが目に見えるになる。
- ・学校での学習活動に対するチーシンが上がるため、とても意のある事業と思う。
- ・環境学習は等で費用がかかるため、導入されれば積極的に取り組みたい。

目指すべき

子どもたちはの時にはやおかをきいせ、でも残さべ、パッはイルする。手いミの水をだしっなしにしないように気をつける。もないのに、がつきっなしの部があればかりをし節にめる。毎日の生活の中でも、ムを減らし環境にやさしくできることはたくさんある。

また学校を挙げて、校庭のやの化、緑のーテン作り、で出たを石にして活用する等、業・ラブ活動等によるエコ活動を展開させることが望ましい。

フィフティ・フィフティプログラムは、省エネ教育と実益を組みわせることにより、日々の暮らしと省エネ活動を更に身近にすることが出来る仕組みである。